

平成 19 年度後期岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程入学試験問題

講 座	法政理論、比較国際法政、 公共法政、司法政策
専門科目	法哲学

以下に挙げる 4 つの問いのなかから 2 問のみ 選択し、解答しなさい。

(1) もともとルールが想定していなかった事例が生じたり、あるいは適用されるルールの意味が明確でないような事例が生じた場合、法の解釈者はどのような対応方法をもつことができるか。いわゆる司法裁量をめぐる論争を参考にして論じなさい。

(2) いわゆる「遡及法」や「秘密命令」といったような法は、法共同体の構成員の義務として遵守されるべきか。法実証主義と自然法論のそれぞれの立場は、この問いをどのように考えてきたかについて論じなさい。

(3) 米国の政治哲学者ジョン・ロールズは、1971 年の『正義論』公刊以降、どのようにその思想を展開してきたか。1993 年の『政治的リベラリズム』にいたるロールズ正義論の変遷について論じなさい。

(4) 対話やコミュニケーションなどの審議過程において合意やコンセンサスはどのように評価されるか。現代の共和主義において、合意やコンセンサスが審議過程においてもつ位置や意義について論じなさい。